ナショナルチームの練習拠点、石川県小松市の木場潟カヌー競技場で練習に励む藤嶋選手

TOKYO 2020

TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

HOST VENUE

TOKYO 2020 オリンピック 自転車競技山梨県開催

オリンピック ロードレース

男子 2020年7月25日[土] 女子 26日[日]

オリンピック開催まで 205日

パラリンピック開催まで 237日

（令和2年1月1日現在）

東京2020オリンピック・パラリンピック 県民総参加で未来へつなぐ

東京2020オリンピック・パラリンピック開催まで7カ月を切りました。山梨県では自転車ロードレースが開催されることもあり、東京の隣県であるという立地を生かして、これまでも機運醸成に向けたさまざまな取り組みを行ってきました。今回は、出場が内定した本県出身のアスリートの意気込みや、大会に向けてさらに勢いを増す県内各地の盛り上がり、この大会をきっかけに本県が未来へ守り継ぎたいものなどを紹介していきます。

県勢として初の出場内定!! 東京2020大会に懸ける思い

2019年8月にハンガリーで開催されたカヌースプリント世界選手権の男子カヤックフォア500メートルでアジア勢で最上位となり、山梨県勢で第1号となる東京オリンピック日本代表に内定した藤嶋大規選手。2大会ぶり2回目のオリンピック出場となる藤嶋選手から今大会に懸ける思いを伺いました。

集大成の舞台で最高のパフォーマンスを見せたい

私がカヌーを始めたのは、小学校4年の時です。兄の影響で、地元、上九一色村（現・富士河口湖町）のカヌークラブに友人と一緒に入りました。目の前に富士山を望む自然豊かな精進湖で、伸び伸びと練習し、高校2年の時にジュニアの日本代表に選ばれ、3年の時に国体で優勝するなど経験を積みました。そうした中で、いずれはオリンピックに出たいという思いが芽生えてきました。夢がかない、2012年のロンドンオリンピックへの出場を果たしましたが、今思うと、この時は出場できたということで満足していた部分もありました。2016年のリオデジャネイロオリンピックの出場を逃した悔しい思いを晴らすためにも、東京オリンピック出場を目指してきたのです。

東京2020オリンピック・パラリンピック代表 山梨県勢選手

男子レスリング グレコローマン60キロ級代表選手

文田 健一郎さん（オリンピック初出場内定）

Kenichiro Fumita

1995年12月18日生まれ 韮崎市出身
ミキハウス所属

写真:フォート・キシモト

東京オリンピックで金メダルを最高の恩返しをしたい

高校3年生の時に、東京でのオリンピック開催が決まってからは、代表になることを特に強く意識し、きつい練習も頑張ってきました。前回大会で代表になれなかった悔しさや、2018年にけがをした苦しい経験をバネに、2017年と2019年の世界選手権では優勝することができました。特に東京オリンピックの代表を勝ち取った2019年の世界選手権では、今まで築き上げてきた自分のレスリングスタイルが通用したのがとてもうれしかったです。東京オリンピックで金メダルという目標をかなえるために、さらに精度を上げた練習を積み、準備をしていきたいです。ふるさと山梨の皆さんからの応援を力に、金メダルを取って最高の恩返しをしたいと思います。

パラ陸上（走り高跳び義足T64）代表選手

鈴木 徹さん（パラリンピック6大会連続出場内定）

Toru Suzuki

1980年5月4日生まれ 山梨市出身
SMBC日興證券所属

声援が溢れるホームでの試合が楽しみ生の姿を見てほしい

過去5大会、パラリンピックに出場しましたが、最高順位は4位ですので、2020年の9月4日は「メダル」だけを目指しています。これまではアウェーという環境の中で試合をしてきましたが、ホームの日本で行われる今大会は、時差や食事、暑さなど、慣れた環境で調整ができ、多くの日本の皆さんに応援をしていただきながら試合ができることは非常に楽しみです。きっと、手拍子の中でのジャンプは一生の思い出になると思います。

オリンピック選手は「身体」の限界に、パラリンピック選手は「心」の限界へ挑戦しています。山梨県民の皆さんには、ぜひ、アスリートの生の姿を見て応援していただきたいです。

今回私は「男子カヤックフォア500メートル」で東京オリンピックの日本代表になりました。この種目は4人で一艇のカヌーに乗るため、一人でも息が合わないと調子が狂ってしまう難しさがあるので、コンビネーションが大切になります。しかし4人が一体となると、他の種目にはないスピードと迫力が出るところがとても魅力的です。

現在はオリンピックに向け、日々トレーニングをしています。ナショナルチームの練習拠点にはスプリントから長距離まで幅広い練習ができるコースがあり、新たなトレーニング施設も完成しました。充実した環境でオフシーズンにも精一杯練習しているので、シーズン本番を迎えたときに自分の体がどのように仕上がっているか楽しみです。東京オリンピックは私の集大成の舞台だと思っているので、最高のパフォーマンスを見せたいです。チームメートと共に強い気持ちで試合に臨み、メダルの獲得を本気で狙います。山梨県の皆さんにも、実際にカヌー競技を見ていただき、カヌーの迫力あるスピード感を楽しんでほしいと思います。応援よろしくお願いします！

東京2020オリンピック出場内定
カヌースプリント競技
男子カヤックフォア500m 代表選手

藤嶋 大規さん

Hiroki Fujishima

1988年5月23日生まれ 富士河口湖町出身
自衛隊所属
2012年ロンドンオリンピック出場
2014年アジア大会カヤックペア200m金メダル

「チームメートと共にメダルの獲得を本気で狙います」と抱負を語る藤嶋選手

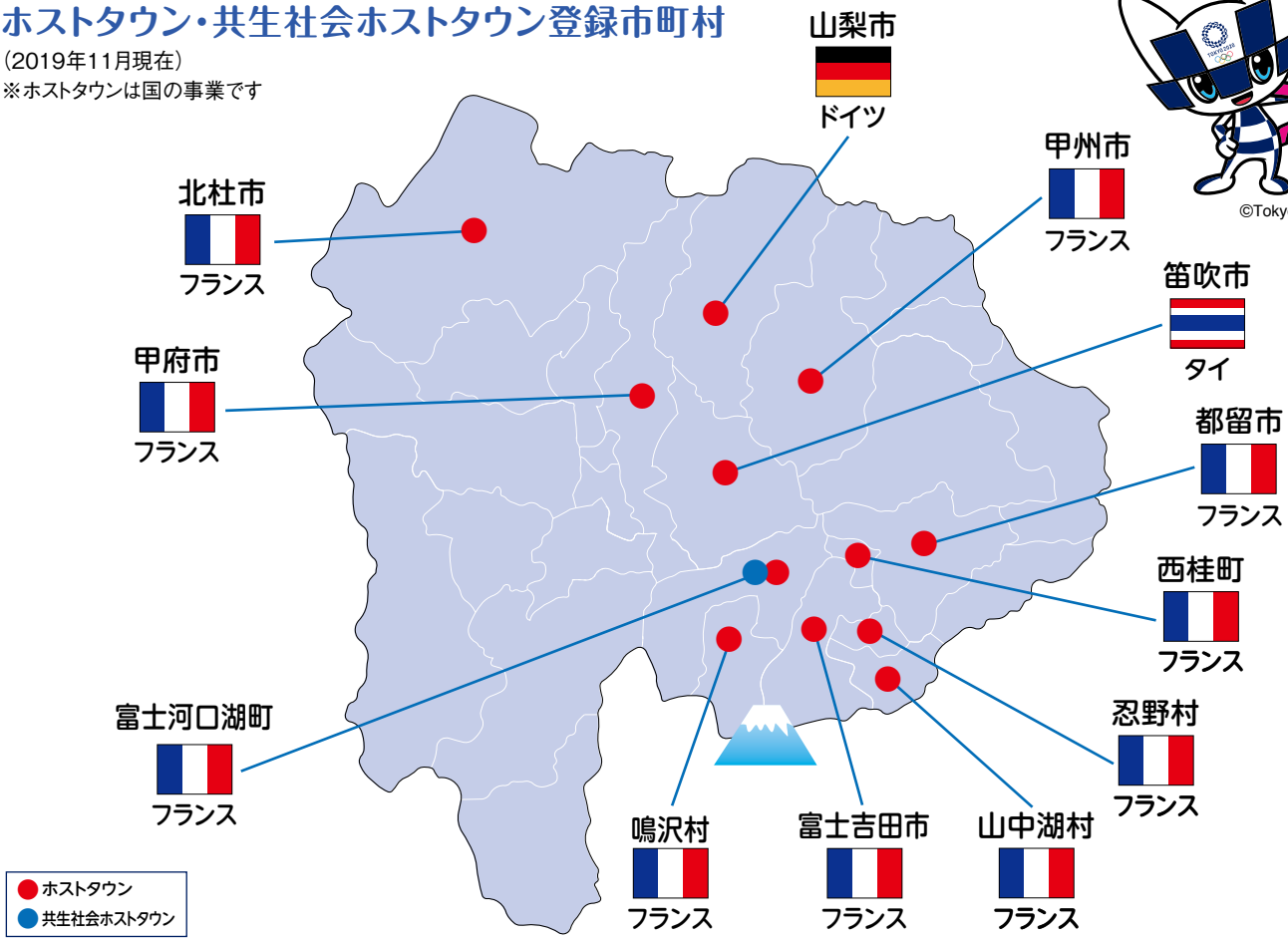
❶スマートフォンまたはタブレットに「aug!」のARアプリをダウンロード（無料）❷アプリを起動❸右の写真にかざすと、自動的に動画が再生されます。

aug!（オーグ）

動画で見てみよう！ 藤嶋大規さんのインタビュー

東京2020オリンピック・パラリンピック ホストタウン・共生社会ホストタウン登録市町村

（2019年11月現在）
※ホストタウンは国の事業です



山梨を世界とつなぐ！ホストタウンから広がる交流の輪

「ホストタウン」とは、東京2020大会の開催を契機に、事前合宿誘致などを通じ、大会参加国との間で人的・経済的・文化的な相互交流を行い、地域の活性化などに取り組む自治体のことです。ホストタウンの中で、特にパラリンピアンとの交流をきっかけに共生社会の実現に焦点を当てた取り組みを推進する自治体を「共生社会ホストタウン」といいます。

本県では2019年11月現在、ホストタウンとして12市町村、共生社会ホストタウンとして1町が登録されており、大会が始まる前からさまざまな交流を行っています。これらの取り組みを通じて、県民が大会に出場する選手や応援に訪れる方々に、山梨や日本の魅力を伝えるとともに相互理解を深め、大会後も続く息の長い関係の構築を目指していきます。

事前合宿受入準備を促進！研修会を開催

「事前合宿」とは、各国・各地域の選手が任意で大会期間前の調整などを目的に行うものです。本県では2019年11月時点で、10市町村での事前合宿が決定しています。

10月11日には、事前合宿が行われる自治体やホテル関係者を対象に研修会を開催しました。研修会では県の東京オリンピック・パラリンピックフランスコーディネートアドバイザーでリヨン第一大学のオリビエ・ニール教授が、オリパラを契機に海外へ山梨のことを発信する重要性について、公認スポーツ栄養士の月野和美砂さんが、アスリートへの食事の提供方法などについて講演し、約30人の参加者たちは熱心に聞き入っていました。

研修会で講演を聞く参加者たち

今後につながる文化・経済交流も視野に

ドイツ ホストタウン 山梨市

山梨市は、高校生を中心にウエイトリフティング競技が行われ、インターハイや全日本選手権が開催されるなど、競技が盛んなことから、ドイツのホストタウンとなり、ウエイトリフティングの事前合宿を受け入れることになりました。ドイツのウエイトリフティング連盟があるライメン市は、ブドウの生産・ワインの醸造が主産業で本市と共通点があるので、自治体同士の交流を大会後も続けていく計画です。ドイツ人の気質は日本人と似ていて、真面目で礼儀正しく、とてもフレンドリーで、今ではSNSで直接連絡を取り合うほど、本市との友好関係が築かれています。さらにドイツのエコに対する先進的な取り組みなど、学ぶべき点も多く、交流をしていく中で多くの発見をできるよう市民に発信していきたいと思っています。

11月17日に街の駅やまなしで開催された「ドイツフェスティバル」に参加したドイツウエイトリフティングナショナルチーム

山梨市 地域資源開発課
課長補佐 **磯村 賢一** さん

2018年には当市から、翌年にはドイツからウエイトリフティングをしている高校生をそれぞれ派遣し、地元の高校生と一緒に練習をするなど、スポーツを通じた青少年の交流がすでに始まっています。ウエイトリフティングは競技としても魅力的ですが、ウエイトトレーニングは多くのスポーツの基礎になり得るので、山梨のスポーツ選手にも取り入れてもらい、今後の活躍につながることにも期待しています。

写真撮影に気さくに応じる選手たち

交流から共生社会を目指す

フランス 共生社会ホストタウン 富士河口湖町

富士河口湖町は、県内で初めて共生社会ホストタウンに登録され、鳴沢村と共に、フランスのパラトライアスロンの事前合宿を受け入れます。パラリンピアンとの交流を契機に、共生社会の実現に向けたユニバーサルデザインの街づくりや、心のバリアフリーを目指して、自治体ならではの特色ある取り組みを実施しています。2018年に初めて受け入れた事前合宿の際は、パラチームの監督が小学校を訪問したり、町民が試合の応援に行ったりするなど、トライアスロンというスポーツに触れ合う機会を設けました。2回目となる2019年の受け入れの際には、地元の幼稚園児や小中学生を交え、来町の喜びなどを伝える歓迎セレモニーを行いました。また選手たちに富士河口湖の魅力を感じてもらえるよう観光を満喫してもらったり、フランスの慣習などを理解し、要望に応える食事の提供をしたりするなど、オリンピックが終わった後も、合宿や観光などに訪れてもらえるような関係を築いています。

富士山をバックに記念撮影をするフランスパラトライアスロンチーム

富士河口湖町 政策企画課
係長 **堀内 拓** さん

共生社会ホストタウンの取り組みをきっかけとして、スポーツや観光の振興、そして障害のある人もない人も共生していく社会の実現を推進していきたいと思っています。

地元の子どもたちとの交流会

「サイクル王国やまなし」を目指したレガシーの創出

自転車は移動手段だけでなく、観光やスポーツの振興、また環境の面でもメリットがあります。県では「山梨県自転車活用推進計画」を策定し、誰もが安全で快適に自転車を活用できる環境を整えるなど「サイクル王国やまなし」の実現を目指しています。東京オリンピックの自転車ロードレースが開催される山中湖村では、五輪後も続くレガシーとして自転車文化を定着させ「自転車の聖地」となることを目指し「山中湖サイクリングクラシック」を初めて開催しました。担当の一人、国際交流員のボシス トムさんにお話を伺いました。

山中湖村を自転車の聖地に

私は、自転車競技の本場フランスで生まれ、2018年7月に国際交流員として山中湖村役場に来ました。自転車ロードレースのプロ選手だった経験を生かし、行政の立場から日本でも自転車文化を発展させていきたいと思い「山中湖村を自転車の聖地へ」という企画書を役場に出しました。東京オリンピックの自転車ロードレースの開催地となり、地域の皆さんの注目が自転車に集まっている今、競技への理解や楽しさに触れる機会や、オリンピックの後にも自転車文化が根付くきっかけを作りたいと思ったからです。そこで「山中湖サイクリングクラシック」を企画し、11月3日に第1回大会を開催しました。多くの方の協力を得て、事故もなく、とてもレベルの高い大会となりました。籠坂峠を中心とする1周6・3キロメートルを15周する、起伏に富んだコースを設定したので、観戦する場所によっていろんな楽しみ方ができたと思います。しかしまだ大会の認知度が低いと感じたので、次回からは、他のイベントと連携させたり、開催時期の変更を検討したりするなど、自転車競技を代表するイベントにしていきたいです。

山中湖村は富士山を間近に望み、多くの自然が溢れ、都心からのアクセスも良い観光地です。これからは「自転車の聖地」として、全国の見本となるような自転車文化を発信していくことにも力を入れていきたいです。

山中湖村 観光産業課
国際交流員 ボシス トムさん

山中湖畔を背に、坂を駆け上がる選手たち。コースは上り、下り、ストレートなど変化に富んでいる。村民協力の下、大会は盛り上がりを見せた

最高のおもてなしを 山梨県都市ボランティア研修会開催

東京2020オリンピック自転車ロードレース観戦のため、国内外から本県を訪れる方々をおもてなしする山梨県都市ボランティア(シティキャスト)を県実行委員会が募集しました。11月24日に、ボランティアに応募した方々を対象に開催された第1回研修会には85人が参加し、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの際に、現地で日本のスポーツ・レクリエーション文化を発信する仕事に就いていた、山梨学院大学経営学部の大﨑恵介専任講師による「私たちが活躍するフィールド」と題した講義が行われました。

©Tokyo 2020

踏み出す一歩が未来を変える

自分たちの県が五輪競技の開催地になることは、一生に一度あるかないかの貴重な機会です。今大会で世界中の人々を最高の「おもてなし」で歓迎するためには、今回集まったシティキャストの皆さんの活動が大変重要です。シティキャストのテーマは「私は輝く」です。目標を持ってシティキャストの活動に取り組み、自分ができることがどのように社会に貢献できるか気付くことで、活動の輪が広がります。例えば外国語を話すことはできないけれど、絵を描くのは得意な人は、その特技を生かしてどのようにコミュニケーションを取るか考えます。その創造性や開拓性がボランティアの原則ですし、生き生きとシティキャストが「輝く」その姿が、多くの人々に広がる大きな「輝き」となれば、皆さんの思い出と記憶に残る素晴らしい大会になると思います。そのために、シティキャストの皆さんには思う存分楽しんでいただきたいです。

県民の皆さんも、ぜひ会場やオリンピック・パラリンピックに関連する場所に出掛けてみてください。実際に足を運ぶことで生まれる交流や、一体感、魅力を肌で感じることがあると思います。一歩踏み出してみることで自分の世界が広がり、多様性を認めることや未来につながるきっかけになる大会になればうれしいです。

山梨学院大学 経営学部
専任講師 **大﨑 恵介**さん

松村恭子さん(大月市)

私は7年ほど前からスポーツボランティアとして活動してきました。選手の方から「ありがとう」の言葉をいただくと、逆にこちらが力をもらう場面が多く、その交流にボランティアとしてのやりがいをいつも感じてきました。山梨にお見えになる多くの方々に、気持ちよく帰っていただくためにも、皆さんと一緒におもてなしをしたいです。

金子綱基さん・聡美さん(甲斐市)

山梨が競技開催地となるせっかくの機会なので、何かできることがあればと思い夫婦でボランティアに応募しました。以前中国に住んでいたことがあり、中国語が話せるのでぜひ生かしたいと思います。そしてオリンピックでの経験を自分たちの子どもにも伝えていきたいと思っています。

【問い合わせ先】 オリンピック・パラリンピック推進課 TEL 055-223-1545 FAX 055-223-1578 山梨 オリンピック 検索